171 Tc-99m GSA SPECTによるTAE前後の肝機能評価

加藤弘毅，佐藤公彦，平野弘子，渡辺 麿，戸村則昭，渡会二郎 (秋田大 放)，佐々木一文，田村清彦(同 中放)

超選択的肝動脈塞栓術(TAE)を行った11例の肝腫瘍(肝細胞癌9例，肝転移2例) に対し,TAEの1週前後にGSA-SPECTを用い,全肝,塞栓部,非塞栓部に分け評価した。全肝についてはHH15とLHL15を指標とした。塞栓部と非塞栓部については,肝全体に対するカウント比(塞栓部:Re, 非塞栓部:Rn)を算出し,TAE前後の変化を検討した。塞栓部の同定はTAE時に動注したTc-99m MAAの分布とCTを参考にした。全肝では,TAE後にHH15が低下する傾向がみられたが,LHL15は一定の傾向を示さなかった。11例中9例でTAE後にReはRnに比し低下が大きく,GSA-SPECTがTAE前後の局所肝機能評価に使用できる可能性を示唆していた。

172 99mTc-GSA によるHCV抗体陽性血液透析患者の肝機能評価について

門阪庄三、河田 実、寺田幸治、梶田芳弘(南丹病院内科、放射線科)、宮崎忠芳(宇治病院内科)

血液透析患者の肝機能の評価する場合、GPT、GOTなど逸脱酵素は一般に異常低値で、慢性肝炎の活動性や残肝予備能の正確な評価は困難である。当院のHCV 抗体陽性血液透析患者18名、陰性患者10名に99mTc-GSAを施行し、その臨床的有用性を検討した。HH15は陽性群で 0.595+0.059、陰性群では0.547+0.036と有意に陽性群で高値を示した($p<0.01$)。次にIFN、SNMC療法に不応でGPT高値が持続している症例に99mTc-GSA と肝生検を経時的に施行した。肝生検像では病理学的な変化は乏しかったが、HH15、LHL15 は臨床像に一致して増悪した。以上99mTc-GSAはHCV抗体陽性透析患者の肝機能の評価法として有用であった。

Presented by Medical*Online